

自己紹介

はじめましての方もそうでない方もこんにちは！
文化政策学部・国際文化学科3年の森遥南です。今年の6月24日よりオーストラリア・クイーンズランド州・ゴールドコーストキャンパスのサザンクロス大学へ留学しています。
6月～2月の8ヶ月間の留学です。全8回の留学月例報告書を通して、みなさんにオーストラリアについて、留学について、楽しんでもらえたら光栄です。



最寄りのビーチにて21歳初日の出

留学に至るまで

留学を考えている方はご存知かもしれませんが、サザンクロス大学へ留学するためには、IELTS6.0(Over all5.5以上)を満たす必要があります。私は、留学したいのか、そもそも将来何をしたいのかがわからなかったため、受けるだけ受けてみようと思い、1ヶ月後の試験を申し込みます。そんな甘い気持ちだったので、IELTSの勉強を一切せず、試験当日を迎えます。そして、留学条件のIELTS6.0(Over all5.5以上)を満たせず、留学機会を逃します。情けないのですが、この時はじめて留学したかった自分の本当の気持ちに気がきました。自分の気持ちに気がつくのが遅かったです。

では、なぜ今オーストラリアにいるのか？

そんな時、チャンスが舞い降りたのです。一つ目が、大学が奨学金を有効活用するため、協定校の2次募集を行ったこと。二つ目が、IELTSが1つのスキルをRetakeできるキャンペーンを始めたことです。申し込み期限を確認し、テストを受ける日程を決めました。幸い、私が満たせなかったのはReadingのみだったので、1週間IELTSのReadingをやりまくりました。迎えた当日。前回は名古屋会場だったため電車で行けたのですが、今回は新幹線に乗り、東京会場で受けました。それから何日かしてメールが届き、私はReadingを4.5から7.0まで上げるという快挙を成し遂げ、今に至ります。



誕プレにローラーシューズを買いました
ガレージセールで2AUD(200円)



おたおめBrekkieをご馳走になりました

留学を考えている人へ

目標を定め勉強をすれば、不慣れな会場で受けることも、無駄に出費することはありません。IELTS6.0(Over all 5.5以上)は、IELTSのテキストを用いて勉強すれば、確実に達成できるスコアだと思います。オーストラリア留学を考えている人は、かる〜くでいいのはじめてみてください。オーストラリアでは、21歳が盛大にお祝いする年齢とされています。3年生に留学するのもありかもしれません！)

私の場合、急に留学できることが決まったものの、母の「行けばいいじゃん！」(お金を出すのは父です)という一言で、実現できました。教務室の方や留学経験のある先輩からのサポートもあり、留学が叶うようになってから、たくさん力になってくれる人に出会えました。留学を考えている人は、まず国際交流センターへ訪れてみてください！

円安が進んでおり、ホームステイ代も馬鹿にならないので、家族には申し訳ない気持ちもありました。しかし、こんな貴重な経験、お金にはかえられません。最高に楽しいです！自分のお金ではないから言える言葉かもしれません。それでも、新たな場所で生活することは、より世界が美しいことを教えてくれます。花も空も海も人も動物も全てが新鮮で、日本にいたら見落としていたものばかりです。また、離れて生活する中で家族や友人の愛を感じたり、ここで出会った友人に私の故郷、日本を説明する時はなんだか誇らしい気持ちになったりと、今まで出会えなかった感情を経験できた1ヶ月でした。

GoCard 公共交通機関利用時に必要となるカード

学部留学をしている学生は、学割(通常料金の半額価格)でクイーンズランド州の公共交通機関を利用できます。大学まで片道300円ほどするため、150円で乗れるのはとてもありがたいです。しかし、私の学割申請はなぜか通らず…。5回ほど申請しました。それもそのはず、大学に登録している住所が日本のままだったのです。着いたらすぐに、住所をステイ先へ変更するよう注意しましょう。周りの友だちはみな簡単に学割を手に入れており、羨ましい時もありましたが、GoCardに電話をしたり、大学職員や友だちに相談したりして、やっと手に入れた学割でバスに乗れた時はとても感動しました。

GoCardに関しては、嬉しいお知らせがもう一つあります。州政府の方針により、国民の公共交通機関での移動を促すため、8/5より半年間どこの区間まで乗っても50円になります。本来片道1500円(学割750円)するブリズベンへ50円で行ける時代が来ます。8月のホリデイはブリズベンへ行く予定なのでお楽しみに!

週末Trip

留学生向けに毎週末、無料で開催されています。先着10名のこのTripは、すぐ定員が埋まるため、メールが来た瞬間に誰よりも早く申し込むことが重要です。私は、Byron Bay と Tamborine MountainのTripへ参加しました。毎回1人で参加しているのですが、最後には誰かしらと仲良くなって帰ってこれ、色々な場所へ無料で行けるので、私はこのTripが大好きです。



最東端にあるライトハウス



美味しいハンバーガー



仲良くなったネパール人と

Home Stay

徒歩15分ほどでビーチへ行けるお宅にステイしています。お家には、プールやトランポリン、バスケットゴール、ベンチプレスがあります。「こんな暮らしがあるのか…」と逆カルチャーショックを受けました。

ステイ先には、13歳の男女の双子と、10歳の男の子がいます。イヌのモーリーもいます!みんなそれぞれにスポーツをしており、私も観戦に行きました。ネットボールやAFLというオーストラリアならではのスポーツをしています。ルールは、見たり聞いたりしてなんとなく理解しているところです。

何よりすごいのがマザーです。彼女がこどものスポーツの送り迎えをし、どんなライトゲームでも必ず応援に行きます。私は、こどもたちがプレーしているところを見るのも、応援しているマザーを見るのも好きです。とても良いファミリーに出会えたなあ日々感じています。

私が感じた JAPAN



おはしの持ち方講座



SUSHI



醤油とキューピーマヨネーズ



最寄りの図書館にて

◎ホストファミリーは日本人留学生を受け入れた経験があり、お家にライスクッカーもあります。食べられないと思っていた白米があっさり食べられました。それから、マザーは豆腐を見つけると私のために買って帰ってきてくれます。もうすでに4パック溜まっています…。最近、「豆腐・レシピ」を検索するのが私の日課です。

◎13歳の男の子は特に日本語へ興味を示しており、「夜ご飯」「お茶ください」などが言えます。お箸を上手に使ってラーメンも食べられます。最近、学校で習ったスペイン語を私に教えてくれます。学校では、スペイン語か日本語のどちらかを選択するようで、日本語の先生が退職してから日本語の授業は開講されてないそうです。日本語教員の卵の皆さん、オーストラリアが呼んでいます!)

◎大学には日本人の留学生が結構います。中には、日本人同士でつるんでいる学生もおり、彼らは永遠に日本語で会話をしています。はじめは英語力のため、日本人と関わらないようにしていましたが、日本人というだけで関わらないのも差別になりうるし、せっかく出会えたのにもったいないと思いました。私が今仲良くしているお友だちの中には日本人もいますが、自身のためにも周りの日本語を母語としない友だちのためにも英語を使う優しい人たちです。良い日本人にも出会えました!